



県と市町の情報ホットライン

かがわ

vol.
104

発行●(公財)香川県市町村振興協会 監修●香川県政策部自治振興課
HP●<http://chousonkai.or.jp/shinkou/publication/>

まちづくり最前線/琴平町

My Town

こんぴらエンタメ×街あかりルネサンス

株式会社アオヤマ 代表取締役社長 青山 重俊さん

Top Message

キラリと光る中小企業で香川の魅力UP

地域の元気印/多度津町本通

People

合田邸ファンクラブ



日本遺産にも認定された「合田邸」の保存と活用に尽力する「合田邸ファンクラブ」のみなさん。
多度津中学校小さな親切推進グループ「ミルフィユ隊」の生徒さんも加わって大邸宅の中庭に大集合!



琴平町



門前町の商店街よ輝け！

こんぴらエンタメ×街あかりルネサンス

いずれの地域でも商店街の衰退は大きな問題です。空き家が目立ち、シャッター街とまで言われる地方の商店街。観光客でにぎわう琴平町においても例外ではありませんでした。通り過ぎるだけではなくゆつくりと一泊し、いかに商店街へ足を運んでいただくか。商工会青年部・女性部のメンバーが中心となって知恵を絞りました。

商店街復興にかける「夏夜市」

「一生に一度はこんぴらさんへ」と言われ、江戸時代には全国各地から人が押し寄せた金毘羅街道。その一つ旧高松街道の門前という立地条件に恵まれた「**新町商店街**」は、昭和の中期まで大変にぎわっていた。商店街に陰りが見え始めたのは、人口減少が始まった1955年頃。それ以後、高齢化を迎えた商店街は次々と閉店が続き、その打開策の一つとして、商工会青年部・女性部が町職員と共に2016年12月に「**冬夜市**」を開催。予想以上の人出があったので、翌年の夏祭りにも新たな風を吹かせる企画を模索。それ以前の「夏まつり」は町営駐車場が会場であったため、ほとん

ど商店街に人が流れていませんでした。「子どもの頃に行われていた」土曜デーのにぎわいが印象に残っていました。商店街を舞台に懐かしい手作りの夜市を開催したいと思い立ち、私が青年部長になったことをきっかけに「夏夜市」を企画しました」と、夜市開催のいきさつを語ってくれたのは琴平町商工会青年部の竹内良輔部長。

九份の灯りが琴平にゆれる

夜市の開催に合わせ、住民団体と共に手掛けたのが「こんぴらエンタメ×街あかりルネサンス」事業です。県が主催する商店街のコンペ事業で優秀事業に選ばれました。台湾の九份は赤い提灯が印象的、宮崎駿



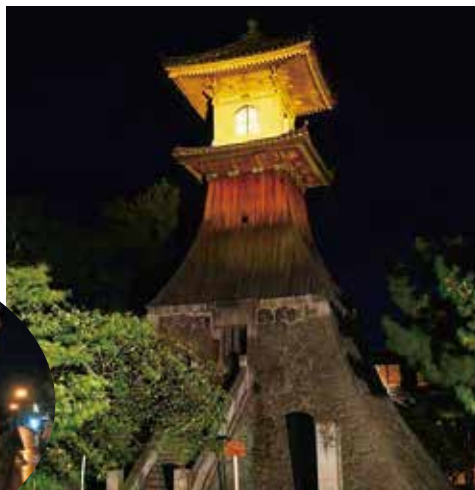
赤い提灯が印象的な台湾の九份を思わせる“こんぴら夏夜市”の灯り。九份から寄贈された提灯も飾られています。

実現されます。

地元の人々や高校生も参加してワークショップを開催し、色が変わる行燈を制作。倉敷の灯りイベントを視察し、和傘のライトアップにも挑戦しました。2018年からは、国の重要有形民俗文化財である「**高燈籠**」や国の登録有形文化財である「**鞘橋**」のライトアップも実現しました。「金刀比羅宮さんが許可してくれたことで、門前町の街あかり事業のグレードが飛躍的に高まりました」と、商工会の嶋田悟事務局長がプロジェクトの進展を語ってくれました。

地元の魅力とマンパワーを結集

街灯りは8月最終週の土曜日に開催される「**夏夜市**」に先立ち、一週間前の**プレイベント**からともされます。プレイベントは、年により変わりますが、地元の芸達者も大いに活躍します。「こんぴらエンタメ」は、町内のエンターテイナーにイベントを盛り上げてもらうプロジェクト。地元で教室もあった無声映画の素人弁士さんが話芸を披露します。こんぴら歌舞伎大芝居の公演前に披露されるちびっ子木戸芸者も大変好評です。2019年のプレイベントは、琴平ふれあい音楽祭“。町内外のアー



貴重な文化財である、日本一高い木造の燈籠「高燈籠」や神様が渡る橋という「鞘橋」のライトアップも行われました。



今では恒例となったチビっ子木戸芸者の話芸。

ティストが心地よい音楽を提供してくれました。また、

地元の特産であるニンク（ガーリック）をテーマに、一之橋公園の出店や町内の各店舗でニンクメニューを味わい投票し、豪華景品が当たるイベント「G1グランプリ」も同時開催されました。



夜市でにぎわう新町商店街。

プレイベントや夜市は予想以上の人出がありました。しかし、商工会では悩みもあります。以前は50名もいた青年部も今では20名、実行部隊10名ほどでイベントを仕切るのは大変です。そこで、2018年には、**琴平町や観光協会、社会福祉協議会、地元の人々が参加する「こんぴら夜市実行委員会」が発足され、プロジェクトチームが結成されました。**

昼も夜もにぎわう門前町に

商店街や街の活性化のためには、特別な日だけでなく、いつ行っても何か楽しいことがある**琴平や商店街**にしたいと、商店街ではさらなる知恵を絞っています。一つは、以前から土産物店やホテルに飾っていたこんぴら歌舞伎大芝居の絵看板を



ワークショップを開催し、絵を描いたり貼り絵をしたりするなどそれぞれ自由にデザインされた行燈の灯り。

商店街のアーケードにスラリと飾ることも計画されています。

「一之橋公園」では商店街に青果店がなくなったことから、買い物弱者を救う目的で社会福祉協議会では周辺の農家をお願いして、定期的な「朝市」の開催をこの春から始めています。この秋には、町内各所を舞台に瀬戸内国際芸術祭の2019県内連携事業として国際創作サーカスフェスティバル「こんぴらだんだん」が開催されるなど、地元以外の主催イベントも増えてきました。「昼間の参道は観光客でにぎわっているのに、夜になると琴平の街は閑散としています。夜のにぎわいを創ることで、町内の回遊性を高めることが町の最大のテーマです」と嶋田事務局長。しかしながら、商店街では組合が休眠しているため、「イベントを開催する際には、青年部・女性部両部長と共に一軒一軒回って了解を得ています。また、商店街などに希望は次々とあるものの、受け入れる貸店舗が少ないという悩みもあります」と、商工会の元木洋輔経営指導員が商店街活性化の難しさを語ってくれました。「とにかく続けることが大切です。続けることで、実行委員会にさまざまな人を巻き込みたい。多くの知恵を集めて昼も夜もにぎわう門前町を取り戻したい」と、ふるさと愛があふれる竹内青年部長です。

香川の先進企業の力を探る **あの人に会いたい！**

株式会社アオヤマ

代表取締役社長

青山 重俊さん

規模は小さくとも、香川県ならではの取り組みで、キラリと光る企業は県内に幾つもあると思います。そうした企業を全国に発信することで、香川県の魅力もアップし、定住率の向上にもつながるのではないのでしょうか。

自治体職員のみなさんには、今後の成長が見込める个性的な企業を見だし、うどんだけじゃない香川県の魅力を大いに高めていただきたい。

和惣菜^{わそうざい}だけの製造販売では、日本一を誇る株式会社アオヤマ。1983年の設立以来、直径36センチの鍋にこだわり、愛情込めてじっくりと煮込むおふくろの味を守り続けています。「田舎煮」「きんぴらごぼう」「10品目のひじき煮」「切り干し大根」など、アオヤマの和惣菜はどれも体にやさしいものばかり。さらに、最近では「減塩しょうゆ」に「希少糖」を使い、味自慢の健康おかずも送り出しています。自由出勤、定年はないというユニークな勤務形態を採用する株式会社アオヤマの青山重俊社長にお話を伺いました。



2018年に高松市香川町大野に完成した新本社工場。



お鍋をモチーフとしたマスコットキャラクター「あおなちゃん」。

貴社の社是、経営理念を教えてください。

企業理念は、「最高の笑顔で、幸せを」。みなさまの食卓に和惣菜を通じて「幸せ」をお届けすることで、社会に貢献できる企業でありたいと願っています。

社員のみなさんには、「みんなががんばりましょう」ではなく、「みんなで最高の笑顔を大切にしましょう」といつも呼びかけています。怖い顔をしていれば人々は遠ざかってしまいますが、にこりと笑えば人々が近づいてきてくれます。笑顔は最高の武器になります。

設立以来、今日までの道のりを聞かせてください。

1983年に30歳で、漬物卸売業として起業しました。概要で申しますと、最初の10年で漬物、次の10年で漬物と惣菜、その後は惣菜一本で今日まで歩んできました。

惣菜を始めたのは、漬物を卸していたスーパリーの部長さんから、「惣菜を作ってみないか」と声をかけられたからでした。良い返事を返したら注文を増やしてくれるだろうとの軽い気持ちでしたが、部長さんはずいぶんと力が入っていたようで、「いつでも

具体的な事業内容を教えてください。

弊社では和惣菜の会社です。「かぼちゃ煮」「まんばのけんちゃん」「なすの煮びたし」など、「おふくろの味」といえるおかずを100品目近く作り、スーパーマーケットなどで販売しています。一日3交代24時間で1,400鍋、3万8000から4万5000パックを出荷します。取引先は、県内はもとより中四国、関西方面まで広がっています。

現在は、マヨネーズでおなじみのキューピー株式会社のグループ会社として惣菜部門の中核を担う「デリア

食品株式会社」さんともお取引引きがあり、取引引きを開始するにあたり、キューピーさんの指導と厳格な検査を受けました。現在もキューピーさんのOBの方がコンサルタントとして指導を行ってくれています。2ヶ月に一度、デリアさんからの検査も受けています。そこで、衛生面でも万全の体制を整えることができました。

お惣菜へのこだわりを教えてください。

弊社でお惣菜を作っているのは、大半が女性です。家庭でお惣菜を作るように、愛情を込めて煮炊きを行っています。



一人あたり5〜6鍋を担当。タイマーはなく、鍋の中の様子を見て出来上がりを判断する。

■休日はいかがお過ごしですか。
たまに1泊2日で国内旅行に出かけるくらいで、今のところ休日はほとんどありません。仕事が好きというより、会社が好きなんです。でも、今後は第一線を退き、これまで公私にわたり私を支えてくれた妻と一緒にゆつくりと旅行に出かけるなど、女房孝行もしたいと考えています。

また、弊社では働いている人が新たな働き手を連れてきてくれます。口コミのみで人材に恵まれ、離職率はほぼゼロです。



念入りに確認しながらバック詰め。真心をこめて手作業で行う。

■自治体職員に向けて、アドバイスをお願いします。
アドバイスというようなおこがましいことは言えませんが、香川県でがんばっている小さな企業にもっと目を向けてほしいと思います。
弊社の話で恐縮ですが、弊社は和惣菜のみで年に15億を売り上げています。惣菜で50億60億の企業

■香川県や市町の行政に感じていらっしゃることをお聞かせください。
今回の新本社工場の完成においては、行政に補助金という形で支えていただきました。最初に銀行の方から、公的な補助のお話を伺った時は、そんなものは必要がないと思ったのですが、実際に計画が始まると、衛生や厚生面を考え当初の予算をオーバーしてしまいました。そうになると補助金が頼りです。
申請にあたっては、本当に懇切ていねいに対応していただき、感謝しても感謝しきれません。おかげで、当初は取り壊す予定であった元の工場も第2工場という形で残すことができ、大変に助かりました。



青山 重俊 (あおやま・しげとし)

兵庫県出身
昭和28年1月28日生まれ 66歳

昭和58年 漬物卸売業(株)アオヤマ設立
平成 6年 惣菜の製造を開始
平成13年 香川町大野移転
平成30年 新工場稼働

本社所在地 香川県高松市香川町大野2446番地

PROFILE



おふくろの味を極める
アオヤマの和惣菜。

使っているアルミの鍋は家庭の味を再現するのに最適です。また直径36センチの鍋は、これ以上小さいと効率が悪すぎる、これ以上大きくなると味のムラが生じるという、弊社にとっては最適のサイズです。
ところが、この鍋一つからは、20バックほどのお惣菜しか作れませんので、他社の方々は口をそろえて、「わが社では無理だ」とおっしゃいます。小さな鍋で人手をかけて作るなど考えられないと言います。
4年前からは、50%カットの減塩しょうゆを使って、減塩のお惣菜も作るようになりました。減塩という、たいていは味が二の次になってしまのですが、弊社の減塩惣菜は味がしっかりしているのが特徴です。実は、希少糖を含有したシロップと砂糖をバランスよく使えば、驚くほど味がしっかりしていることに気付きました。希少糖は、ご存じのように香川県発の夢の甘味料。希少なだけに高価な糖でもあります。



ゴボウやキュウリなど、手作業ながら驚くほどの速さで切られていく。

■女性が働く企業としての工夫を教えてください。
弊社では、パートさんを「パートナーさん」と呼んでいます。「パートナーさん」は、会社を支えてくれる大切な戦力です。正社員の人たち、特に男性社員は、こうしたパートナーさんへの感謝や思いやりをともしれば忘れがちですが、女性の方が気持ちよく働ける環境を整えるのが、社長である私や男性社員の仕事だと考えております。女性は常に2歩先3歩先を考えて仕事をしてくれます。
男性が気遣いと思いやりを示せば、女性はどんなアイディアを出し、どんな生産性を高めています。



自慢のトイレは、入室と同時に音楽が流れ、女性がより美しく映るよう照明にもこだわりが。

■会社の将来像と目指すべき社長及び社員像をお聞かせください。
言葉だけではなく、ここで働いている人が幸せになつてもらいたい、本気で思っています。働く人はそれぞれですが、みなさん全員がここに働きに来て癒やされるような職場、全員が幸せを実感してくれる企業、それがアオヤマの目指すところです。
実は、弊社の就業形態は、パートナーさんは自由出勤です。好きな時間に出社して、好きな時間に帰ります。それを聞くとみなさん「スケジュール管理がでさず、穴が開くのでは」と心配してくださいますが、むしろ休むことなく積極的に出勤してくれ



割烹と居酒屋風の雰囲気がある休憩室は、なごやかにくつろぐことができる。

してくれま。弊社では、早退の際も休む時も理由を言う必要はありません。休むという連絡は必要ですが、なぜ休むかは聞きません。女性の方は、どうして早退するのか、休むのかと詮索しがちですが、会社が理由を聞くことがなければ、みなさんそうした詮索や陰口をきくこともありませんので、だれもがストレスなく休み、そして働くことができます。
弊社は定年がありません。元氣なうちはいつまでも働いていただきたいと思ひます。どうしても年齢を重ねれば体を動かすのがつらくなり、口数ばかりが増えてしまいがちです。ですから、高齢者といわれるようになれば、前に出過ぎず口数を抑えてくださるとお願いしています。それで、2時間でも3時間でも、ご自身の判断で働いていただきます。もちろん老後もお小遣いは必要ですから、みなさんしっかり働いてくださいます。
結果的に自由出勤も定年制がないのも、労働意欲に良い影響を与え、生産性は高まりました。ですから、弊社では、鍋で煮物を作るといふスタイルで、安心した家庭の味をお届けすることができま

マイナンバーカードの 取得促進について



政策部自治振興課
主任主事 宮脇 万友

令和元年6月4日に開催されたデジタルガバメント閣僚会議において、「マイナンバーカードの普及とマイナンバーの利活用の促進に関する方針（以下「普及・促進方針」といいます。）」が決定されました。また、同年6月21日に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2019」においては、安全・安心で利便性の高いデジタル社会を早期に実現する観点から、令和4年度中にほとんどの住民がマイナンバーカードを保有していることを想定し、マイナンバーカードの普及を強力に推進することとされました。特に、地方公務員等については、令和元年度中のマイナンバーカードの取得が推奨されています。そこで今回は、マイナンバーカードの取得促進についてご説明します。

取得促進をめぐる背景

平成27年10月にマイナンバー法が

施行され、早4年が経過しようとしています。令和2年度からは、マイナンバーカードを活用した自治体ポイントによる消費活性化策の実施や、健康保険証としての利用の開始も予定されています。これらの施策を円滑に実施するためには、ほとんどの住民がマイナンバーカードを保有・利用できるところが必要不可欠です。しかしながら、マイナンバーカードの人口に対する交付枚数率は、全国で13・0%、香川県では10・4%にとどまっており、伸び悩んでいる状況です（平成31年4月1日現在）。

今後は、普及・促進方針に基づき、マイナンバーカードの取得及び利活用を促進していくなかで、交付申請件数が大幅に増加していくことが予想されます。まずは、地方公務員等が先行取得することで、市町の窓口における交付事務を平準化させ、マイナンバーカードの円滑な交付に繋げていく必要があります。

申請方法

マイナンバーカードの申請は、次の4種類の方法で行うことができます。

① 郵送による申請
個人番号カード交付申請書に必要事項を記入して、送付用封筒に入れて郵送します。

② パソコンによる申請
デジタルカメラで顔写真を撮影し、申請者専用ウェブサイトから申請します。

③ スマートフォンによる申請
スマートフォンで顔写真を撮影し、個人番号カード交付申請書のQRコードを読み取り、申請者専用ウェブサイトから申請します。

④ 街中の証明写真機による申請
タッチパネルから「個人番号カード申請」を選択し、撮影用のお金を入れて、交付申請書のQRコードをバーコードリーダーにかざします。画面の案内にしたがって、必要事項を入力し、顔写真を撮影して申請します。

申請から約1カ月後に住所地の市町から交付通知書が郵送されます。通知書に記載している必要書類を持って、交付窓口でマイナンバーカードを受け取ってください。

利活用促進について

現在、マイナンバーカードは主に各種行政手続きの際の公的な身分証明書として活用されています。平成29年11月からは、マイナポータルの本格運用が開始し、子育て関連のサービスがオンライン上で申請できるようになる等、様々な場面で利用されています。さらに、令和2年度からは、次のような活用が予定されています。

① 自治体ポイントによる消費活性化策

消費税率引上げに伴う対応として、マイナンバーカードを活用してプレミアムポイントが付与されるものです。このポイントは、マイナンバーカードを取得後、マイキープラットフォームからマイキーIDを設定してクレジットカード等での前払により自治体ポイントを取得した際に自動

付与されます。自治体ポイントは、地域の商店や公共施設、地域産品を扱うオンラインショップ等で、1ポイント1円として利用することができます。

② 健康保険証としての利用

医療保険事務の効率化や患者の利便性の向上等を図るため、マイナンバーカードを健康保険証として利用するものです。マイナンバーカードによるオンライン資格確認等の手続きの電子化により、過誤請求の防止等に繋がります。導入にあたっては、令和4年度中に概ね全ての医療機関での利用環境の整備を目指すこととされています。

このほかにも、各種ワンストップサービスの導入や各種カード・手帳等との一体化等によるデジタル化等、今後さらにマイナンバーカードを利活用できる場面が拡大していく予定です。

円滑な取得・更新の推進について

普及・促進方針では、マイナンバーカードの取得促進に向けて、次の方

針が打ち出されています。

① 交付円滑化計画の策定
② 全業所管官庁等を通じた計画的な取組と定期的なフォローアップ

③ マイナンバーカードの申請・交付機会の拡大等

④ 住民票作成時のマイナンバーカード申請手続整備

⑤ 取得申請事務の簡素化等

⑥ 電子証明書等の更新への対応

国において、市区町村の関係人員増員への対応、取得申請事務の簡素化等への対応（補助金の対象経費の拡大等）等、必要な財政支援を行うこととしており、具体的な工程表が公表されます。市町においては、国の工程表を受けた交付円滑化計画の策定が求められます。その中で、交付スケジュールの策定、これと整合性のあるマイナンバーカード取得機会の拡大等の具体策、体制等を明確化することとなります。マイナンバーカードの円滑な交付を図るために、住民の来庁を単に待つのではなく、住民票の作成や国民健康保険への加入等の行政手続きの機会

を捉えた申請受付や、他の行政機関や企業等に職員が直接出向いての申請受付等、多様な申請機会を設けることが必要となります。また、今後の活用方針を受けて、交付申請が大幅に増加することが見込まれるため、交付窓口の体制強化や職員の養成等、交付を円滑に行うための体制を整えることも必要です。

今後、国による月単位での進捗状況のフォローアップも予定されており、市町においては交付円滑化に向けて、現時点から検討を進めていただくことが期待されています。

なお、総務省において地方公務員共済組合の組合員及び被扶養者のマイナンバーカードの申請・取得状況に関する調査が実施されています。この機会に、積極的な取得をお願いします。



京都府
井手町

理事兼地域創生推進室長
事務取扱
眞木 伸浩さん



連携協力包括協定調印式

官学連携によるまちおこし
～町内外の力の協働～

人口減少に悩む井手町では、地方創生の取り組みの一つとして、外部の若い力を取り入れる官学連携のまちおこしを推進しています。

1 はじめに

井手町は、京都府の南部、京都と奈良の間に位置する面積わずか約18km²の非常に小さな町です。人口約7,500人の本町は平成17年から平成27年にかけての人口減少率が約11%を超える等、他の多くの小規模市町村と同様にして急激な人口減少に悩まされています。

そこで、本町では、①町の暮らしの利便性を高めるJR奈良線の複線化促進、②新たな雇用の機会を創出する企業団地の開発の推進、③開発適地の拡大をもたらす新たな国道の整備促進という3つのインフラ整備を軸とした人口減少対策を講じています。これらの施策は一定の進捗を見つつあるところですが、当然ながら、まちの魅力の醸成のためには、インフラを整備するだけではなく、それらの効果を最大限に生かすことができる地域の人づくりを併せて行っていくことが不可欠です。

そこで、本町では、町外の力を借りたまちおこしを行い、それを契機とした町内の地域活性化の機運を醸成する取り組みを進めているところです。本稿では、その具体的内容の

一つとして、官学連携によるまちおこしの取り組みをご紹介します。

2 官学連携によるまちおこし

(1) 官学連携事業の経緯

本町では、大学教授等の有識者や地域住民らにより構成された「人口減少を食い止めるための検討委員会」を平成24年度に開催し、町の人口減少を食い止めるための諸施策を提言いただきました。その内容を踏まえ、同委員会の座長であった大西辰彦教授が所属する京都産業大学との間で、平成25年8月に「まちづくりに関する連携協力包括協定」を締結。大西教授が担当するゼミの学生らを中心に構成された「京都産業大学井手応援隊（以下「井手応援隊」といいます。）」

が、現在、本町での地域活性化に取り組んでいます。

その具体的な活動内容としては、
・シビックプライドの醸成に向け、町内の放置竹林を活用し、町の子どもやお年寄りと共に作る竹灯籠により町が誇る名水玉川を彩る「井手！みねーしょん」の開催
・町内のまちおこし団体等と学生がタッグを組み、特産品の開発や世代間交流の促進等の若い知恵が必要な様々な課題に取り組む「キャットストンプログラム」の推進
といった様々な取り組みが行われていますが、ここでは、特に、古民家を使った特徴的な取り組みである「むすび家ide」事業について取り上げます。



井手！みねーしょん

(2) 地域の学びと交流の場を目指す「むすび家ide」

「むすび家ide」は、前述のような活動を実施するに当たっての井手応援隊の拠点となるよう、築100年以上の古民家（空き家）を改修した施設です。平成28年度に地方創生加速化交付金（約800万円）を活用して改修したこの「むすび家ide」は、井手応援隊による各種イベントの準備会場としても勿論活用されていますが、そのほか、地域の「学びと交流の拠点」となることを目指した取り組みも行われています。



寺子屋の様子

まず、町内に塾がないことを踏まえ、町内の小学生を対象とした放課後の学習支援事業である「寺子屋」活動が実施されています。週1回ではあります、何度も足を運ぶ常連がいる等、放課後における子ども達の楽しみの一つともなりつつあるようです。

また、町内に飲食店が乏しいことを踏まえ、平成30年度末にキッチン等を改修し、町家カフェを開設しました。このカフェについては、準備・運営を学生のみで担うことが困難であることから、地元のシェフや町商工会青年部といった地域の様々な方々に御協力いただいています。食材は地元のものを使用し、地域の方々を中心として常連の方々既に沢山いらつしやる憩いの場となっており、最近では、地元老人クラブによるラジオ体操や、商工会青年部と学生との連携によるYoutuberを招いたグルメイベントも行われているところです。

3 おわりに

小規模な地域となればなるほど、地域活性化に関する全ての資源を地域内で確保するのは難しいのが現実です。よって、若い力や専門的な力等、様々な町外の力をうまくお借りしながら、一つ一つの取り組みを前へ進めることが必要です。

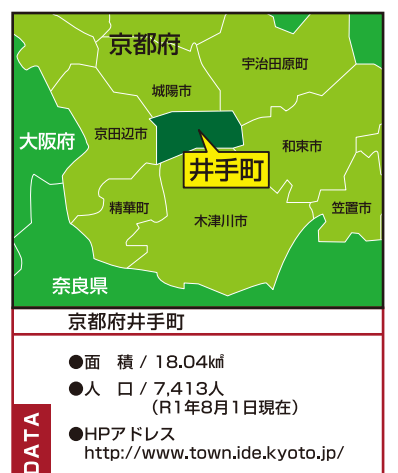
本町では、学生の動きを契機とし、地元の様々な主体がまちおこしの取り組みに参画しつつあります。町としては、こうしたきっかけづくりに引き続き取り組み、地域自らの力をつけていきたいと考えています。



むすび家ide



むすび家カフェのオープン



香川の自治に新しい力 New Face

はじめまして

高松市
資産税課

ささき
佐々木 伸さん



■あなたのチャームポイントは？
物腰の柔らかい話し方です。
のんびりお話ししましょう。

■高松市をこうしたい！
コンパクトシティの実現。生活
拠点を集約し、きたる人口減少
社会に対応できる街にしたい。

さぬき市
子育て支援課

いまい
今井 佑紀さん



■今、熱中していることは？
ファッションです。社会人らしい
着こなしや身だしなみを研究中
です。

■さぬき市をこうしたい！
安心して暮らせるまちにしたい
です。自分に関わる子育て世代の
人々が楽しく子育てでできるよう
支援したいです。

坂出市
市民課

みよし
三好 尚紀さん



■今、熱中していることは？
ボクシングです。週に2、3回
クラブに行き大会で優勝できる
よう日々努力しています。

■坂出市のいいところは？
地域での結びつきが強いところ
です。地区対抗のソフトボール大
会があるのですがそこで協力し
合うことで交流を深めています。

三豊市
市民課

やまおか
山岡 陽香さん



■あなたのチャームポイントは？
私のチャームポイントは眼鏡
です。知的に見えるところが気に
入っています。

■三豊市をこうしたい！
笑顔があふれるやさしい街に
したいです。そのためには私から
いつも笑顔で困っている人に手を
さしのべていきたいです。

土庄町
税務課

ふくだ
福田 雛子さん



■今、熱中していることは？
筋トレです。お腹を割ることを
目標に、腹筋を中心に毎日頑張っ
ています。

■土庄町をこうしたい！
誰からも愛される町にしたい
です。町民の方はもちろん観光
客の方にも土庄町の魅力をどん
どん広めていきたいです。

三木町
健康福祉課

みずた
水田 悠斗さん



■目指す人物像は？
サッカーの本田選手のように口
にしたことを実現させる行動力
とメンタルを持つ人間です。

■三木町のいいところは？
獅子舞です。伝統ある獅子舞
を通して、大人も子供も一緒に
活動することで、地域一体となっ
て町を盛り上げます。

宇多津町
生涯学習課

にしおか
西岡 賢亮さん



■今、熱中していることは？
ゴルフです。ボールが遠くに飛
んだ時には、言葉に出来ないよう
な快感が得られます！

■宇多津町をこうしたい！
魅力溢れるこの町を多くの
人に知ってもらい、更なる発展と充
実を図りつつ、香川県をリードす
るような存在にしたいです。

多度津町
税務課

すずむら
鈴村 理恵さん



■今、熱中していることは？
書道パフォーマンスを見ること
です。ダイナミックに文字を書く
姿にパワーをもらえます。

■多度津町のいいところは？
人や町の雰囲気がかいところ
です。歴史ある町並みと緑やお
店がバランスよく融合し、とても
過ごしやすい町です。



北原白秋が訪れて「楽々荘」と命名したという大広間。漆塗りの格天井にシャンデリアが輝く。



洋館や離れ、広間や主屋に囲まれた中庭。囲む建物は当時の最先端のデザインや技術を試みていて、建築史的にも重要な意味を持つ。



**多度津町
本通**

多度津七福神の遺産が光る

合田邸ファンクラブ

(代表 泉川 昌弘さん)

江戸時代には北前船やこんぴら船の港として大変なにぎわいを見せていた多度津。明治から昭和初期にかけては、蓄えた富を元手に近代産業の育成に力を注いだ七人の豪商がおり、「多度津七福神」と呼ばれていました。その歴史を今に伝える貴重な史跡「合田邸」は、北前船をテーマとした日本遺産の構成文化財の一つでもあります。

「合田邸」は、香川県初の私立銀行である多度津銀行の取締役や四国電力の前身・四国水力電気の社長などを務めた合田房太郎氏の邸宅で、700坪の敷地には、大正から昭和にかけて和洋それぞれに特徴のある13棟が建てられました。シャンデリアが輝く大広間などでは、本県出身の総理大臣の大平正芳氏や歌人の北原白秋、吉井勇両氏など、政治家や文化人の多くが政治経済や芸術を語り合ったとか。

房太郎氏から数えて四代目となる現オーナー房生さんは、現在東京在住。



洋間の一つに今も残されている金庫。中は3畳ほどもある。

邸宅の管理を行っているのは、同級生であり庭で野球をした思い出もあるという泉川昌弘さん。ご自身は家業を継ぐためにUターンして、現在はずいぶん近くの神原薬局を営んでいます。多度津の深い歴史に気付いたのは、地域の資産を掘り起こすため香川県から派遣された学芸員さんの話を聞いたのがきっかけでした。

合田邸の価値に気付くと同時にこのままにしておくのはもったいないと感じた泉川さんは、ぜひとも邸を保存し地域振興に役立てたいと、平成28年に「合田邸ファンクラブ」を立ち上げました。現在、会員は30余名。合田邸の清掃や草刈り、建物の修復と地道な活動が続け、春と秋の2回見学会イベントを開催しています。ほかにも教育機関の見学や調査、取材の受け入れなど、さま



ざまな要望に応えています。

歴史の中で輝いた多度津の元気を令和の元気につなげたいと奮闘する「合田邸ファンクラブ」。周辺にはすでに、銭湯を改装したカフェなど、レトロな建物を生かした新店舗が次々と開店し、若い人々の姿も目立つようになりました。

「合田」ご夫妻はもちろん県や町、専門家の方々、広く県内外のみなさんの支援がなければ貴重な文化財も時間にむしばまれていくばかり。温かいご理解に心から感謝し、各界の著名人が合田邸に集ったように、保存再生に向けて多くの人々の絆を結び、多度津の元気発信基地にしたい。次の目標は合田邸を中心とした本通一帯を国の重要伝統的建造物群保存地区にすることです」とファイトを燃やす泉川さんです。

DATA

合田邸
香川県仲多度郡多度津町本通1-5-2
☎090-7785-7573
(合田邸ファンクラブ代表 泉川 昌弘さん)



「合田邸ファンクラブ」のみなさん。前列右から2番目が代表の泉川昌弘さん。

ハロウィン ジャンボ

5億円

1等前後賞合わせて5億円
1等3億円、前後賞各1億円

当せんのチャンス広がる

ハロウィン ジャンボ

3千万円

ミニ

1等前後賞合わせて3,000万円
1等2,000万円、前後賞各500万円

ジャンボな
ハロウィンで
大収穫!

この宝くじの収益金は
市町村の明るいまちづくりや
環境対策、高齢化対策など
地域住民の福祉向上のために
使われます。

インターネットからも
購入できます!

宝くじ公式サイト

<https://www.takarakuji-official.jp/>

9月24日(火)

発売期間 9月24日(火)~10月18日(金) 抽せん日 10月30日(水)

同時
発売

各1枚 300円

2019年新市町村振興宝くじ

公益財団法人 香川県市町村振興協会